

KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
ベクティビックス+ mFOLFOX6療法 患者プロトコール

催吐リスク

中等度

放射線併用なし

投与プロトコール 1コース14日間 コース制限なし 《開始時基準 PS:0~2 年齢:制限なし》		投与量	投与日	投与時間	備考
ルートKeep	生食 500mL	—	Day1	—	
プレメディ	デキサメタゾン+5-HT3R拮抗剤	—	Day1	30分	
	生食 100mL				
①	ベクティビックス: 6mg/kg	mg	Day1	1時間	
	生食 100mL				
経過観察 (1時間)	ベクティビックスの投与前後は、ベクティビックスの投与速度と同じ速度でルートキープ用生食を用いてフラッシュする。以降、infusion reactionの発現に注意し、②③を投与する。				
②	エルプラット: 85mg/m ²	mg	Day1	2時間	
	5%ブドウ糖 500mL				
③	レボホリナート: 200mg/m ²	mg	Day1	2時間	
	5%ブドウ糖ハック* 250mL				
★②、③は同時に投与					
④	5-FU(急速静注): 400mg/m ²	mg	Day1	全開	
	5%ブドウ糖 100mL				
⑤	5-FU(持続静注): 2400mg/m ²	mg	Day1	46時間	5-FU:(持続)の投与量に合せて、トレフューザーtypeT流量換算表より生食量を算出する。
	生食 (トレフューザーtypeT流量換算表より算出)				
◆5-FU持続投与では、トレフューザーtypeT150mLを使用し、3.7ml/Hrにて投与。					
◆5-FUと生食の比率で流速変化する為、生食投与量はトレフューザーtypeT流量換算表を参照すること。					

佐賀大学医学部附属病院